

# 市大山岳会ニュース

大阪市立大学山岳会

会長 大橋秀一郎

No. 7

平成4年4月1日発行

編集：総務委員 矢倉 睦

## 総務運営幹事

山岳会総会が下記のとおり開催されました。

日時：平成4年2月2日（日） 午後3時

場所：JR大阪保養所

議事：黙禱

開会の挨拶・・・・・・・・・・大橋秀一郎会長

3年度活動報告・・・・・・・・各委員

会計監査報告・・・・・・・・高木会員

平成4年度事業計画

山岳会会則改正

新役員選出

ナムチャバルワ遠征報告・・・・片岡会員

ナンガ・パルバット遠征報告・・和田会員

(1) 会則改正について

山岳会会則を改正いたしました。

改正された点は、役員に幹事長を新たに設け、また総務・企画運営・会計・山岳部指導の各委員を幹事と名称変更したことです。幹事長は、幹事の互選により選任され、会務を運営することになります。

(2) 新役員は以下のとおり選任されました。

幹事長 藤本 勇

総務幹事 島川 勝、小松 稔、矢倉 睦

企画運営幹事 岡本恒夫、西村正男、八木信男

会計幹事 奥田 寛、福山昇二

山岳部指導幹事 廣瀬秀雄、小倉裕史、尾形達也

## 山岳会の運営について

幹事長 藤本 勇

2月の年次総会で山岳会の機構が一部変更され、先輩諸兄がおられる中で、幹事長に就任しました。微力ながら会長・副会長の補佐役として頑張りますので、会員各位のご支援をお願いします。

数年前より山岳部員の減少で山岳部の存続が危ぶまれております。新入部員の確保が最大のテーマです。去年は幸いにして1名の新人部員の加入を見ましたが、まだまだ風前の灯の状態が続いています。今年は入学手続きの日にテントなどを張って勧誘し、また山の経験者には直接アタックをかけようとしています。

行事計画は年間予定を組みながら、ファミリーハイキング、市大ボート祭参加、比良山小屋などへ多数の会員が参加し、親睦を図っていただきたいと思っております。

一昨年より発行しております「山岳会ニュース」は更に内容を充実して、遠隔地の会員にも山岳会が身近なものになるようにしていきたいと思っております。

また、昨年末に死去されました我等のドン、故泉隆次郎氏の追悼集を一周忌に間に合うよう努力します。編集委員より原稿依頼がありましたら、よろしくお願い致します。

最後に関係諸団体にも積極的に参加して、市大山岳会のPRをして参ります。

(1992. 3. 17)

## 平成4年度行事計画

企画運営幹事

(岡本・西村・八木)

- \* 5月 中旬 第101回大阪市立大学ボート祭 参加  
(2クルー参加の予定)
- \* 5月 中旬 山岳部新入部員歓迎会(予定)
- \* 8月 中旬 ゴルフコンペ

- \* 9月 比良山 お月見山行 (予定)
- \* 10月 日帰りハイキング またはバードウォッチング (予定)
- \* 11月 下旬 比良高津山荘薪上げ
- \* 12月 上旬 泉氏を偲ぶ会 (予定)

- ★ 会員の皆様の積極的なご参加をお願い致します。
- ★ 総会にはご参加できない方もお気軽にお越しください。
- ★ ご要望やご意見がございましたら事務局または幹事までお願いいたします。

### ■▲◆○ 総会欠席者の一言 □▲◇●

#### 《会員》

- ・老齢のため諸会合に出席できず、失礼します。 —西村信夫
- ・泉氏御逝去の通知の入手が遅れて告別式には参れませんでした。衷心からお悔み申し上げます。尚、先般比良高津山荘で、泉氏から話のあった、寄付の件は、稀少ながら50万円市大当局を通じ、年末に払い込み致しましたので、4年度の山岳部の予算に追加計上される予定ですから、山岳会、現役御協議の上有意義に御活用下されれば幸甚です。諸兄何卒よろしく。 —神吉仁作
- ・寝たり起きたりの生活ゆえ、全ての会合には出られません。経費節約の為、このようなハガキを出すことは不要です。 —藤野市三郎
- ・「岳人」(1989年2月号)に和田城志さんが、『黒部横断研究』を書いておられますが、その中に大商大山岳部の記録が載っています。『雪線』(第18号?)に載った山行(アタック隊は森本、三島先輩でしたが)、記録をゼロックスして下さいませんか。また、前々からお願いしていました台湾大霸尖山行の記録もありましたらゼロックスして送って下さい。 —白井順三
- ・何時も御無沙汰ばかりで申し訳ありません。当日は先約がありますので、失礼させていただきます。2月8・9の両日は高商部24年卒業者の東西合同同窓会を新和歌浦で行いますので、大阪に参ります。1週間違っておればと残念です。尚、

私共は杉本町キャンパスで勉強したことがありませんので、今回初訪問する予定です。

—谷口清士

・泉大先輩御葬儀の模様を廣谷博士に聞き、あらためてお悔み申し上げる次第です。

—内藤 毅

・残念ながら息子の結婚式で欠席致します。盛会を念じております。

提案事項 緊急時の東京会員への連絡ルート（発信者→東京受信者）を明確にして頂きたし。今回（泉さんの訃報）のような場合（小生の場合）、JAC関係者からの問い合わせで知ったような次第。（一寸テイサイが悪いのと違いますか）

—廣谷光一郎

・アメリカに行っています。盛会を祈っています。泉様の冥福を祈って合掌。

—橋本信行

・皆々様に宜しくお伝え下さい。

—中井 博

・あけましておめでとうございます。皆様にとりまして、よい御年でありますように。

—上堂竹壽

・茨城県鹿島に単身赴任中で帰阪できず、出席できません。皆様によろしくお伝えください。ナムチャバルワのTV（NHK）見ました。比較になりませんが、冬山の地吹雪を思い出しました。

—中嶋信正

・皆様によろしく。2月2日岸和田市の雪中（？）登山があり、体育指導委をしておりますので、そちらに参加しなければなりませんの欠席します。山辻英也

・バンコック赴任中のため欠席させていただきます。

—伴 明

・出張のため残念ながら欠席です。皆様によろしくお伝え下さい。—岡野幸義

・片岡・和田君の報告も聞けないが残念。皆様によろしくお伝え下さい。私も札幌勤務6年になりましたが、あと1年はおりそう。北海道に遊びにでも来られた時は、連絡を下さい。今ならスキー、夏なら山、神湯を案内します。上田忠士

・下記の住所に変更しましたので連絡致します。

〒569 大阪府高槻市氷室町1丁目51-12

—毛戸彰禧

・皆さんお元気ですか。山岳会の活動の充実をお祈りしています。私の方、相も変わらず平均睡眠時間10時間。

—西沢裕子

・当日担当クラブの試合がありますので…（このところ毎年重なっています。）

—八木信男

・会社の行事でスキーに行くため、参加できません。しばらく御無沙汰してすみません。

—奥田尚志

・スキーに行きますので欠席します。ご盛会をお祈りします。

—矢倉 睦

・ぎりぎりまで日程調整したのですが、どうしても行けそうにありません。遅く

なって申し訳ございませんでした。

—下田勝久

### 《会友》

・当日は三田さんを偲ぶ会がごさいますので残念ながら欠席致します。

—今西壽雄

・故泉隆次郎氏の御冥福を心よりお祈り申し上げます。残念ですが月例杯に参加せねばなりませんので、総会欠席させていただきます。

—大堀堯義

・小生体調をくずし、伏床中でしたが、正月6日から入院し、病院生活をしております。年末泉さんの訃報に接し、驚いております。体調が回復すればお悔みを申し上げ、お香典をお送りするつもりですが、残念ながらまだ果たしておりません。皆様によろしくお伝えください。(病床から)

—佐々木勇

・泉氏供養に市大山岳会コンパを喀什市で開催したい。PakistanへぬけるBus Tour を楽しもう。

—原田直彦

・暮れの24日から19日までアルゼンチンのアコンカグアを見てきました。記念講演お二方のお話を伺えず残念です。

—宗貫慶子

・急ぎのお手紙は現住所 所沢市榎町11-15にお願いします。

—國本清茂

## 山行記録

### 厳冬の山陰「大山」紀行

武部秀夫

1991年12月29日(日)

現在、岡山に住んでいます。四国の山などぼつり、ぼつりと登っていますが、やはり、雪の山が一番好きです。年末のあわただしい中、岡山をあとに、伯備線で米子に向かいます。雪は少ないとのことですが、米子駅前<sup>ミヤコ</sup>は10cmの積雪でした。バスで大山寺に向かいます。夏に、キャンプ指定地となっています大山下山野<sup>シヤノ</sup>営場にて17時到着。ツェルトを張りました。私の他には、人はいりません。ほんとうに静かな、こわいくらいの静寂。そしてあえてフォーストビバークなので寒い<sup>ヒヤ</sup>です。満天の星をさかかなにチビリチビリ……いいものです。

12月30日（月）

ビバーク地出発（5時）－ 大山弥山頂上（10時15分）－ 下山野営場（11時50分）ほとんど眠れずに、4時起床、5時出発。ヘッドランプをともしながら、闇の中のトレースを一步一步進む。10分程で大山寺八大荒神の社のところでピタッとトレースが消える。

ここから延々とラッセルが始まる。50cm。深いところでは、腰までのラッセル。この頃の冬山ではトレースがぼっちりでコンクリート階段状になっている山域がほとんどの中で、ほんとうにラッキーな状態であったと感謝します。一人で黙々とラッセルする喜びを独り占めできるのですから。しかし、時間が刻々と進むだけで距離がかせげません。ようやく9時近く六合避難小屋、ここから上は細い尾根と思いきや、樹林帯が続いていて、まだまだラッセルが続きます。標高1500mでどうやらアイゼンの世界となりました。しかし昨日とうってかわっての吹雪。頂上近く柵をたよりに頂上へ。下りは、走る様になって、1時間20分程で終了。

久々の単独行。冬山のよさをほんとうに一人占めできた、いい山旅でした。

## 甲斐駒ヶ岳黄蓮谷左股

1992年2月21日～23日

尾形達也

私のここ数年の積雪期の山行は不本意な結果に終わる事が多くなってきた。どうやら目的に対する執着心が弱くなってきているようだ。今までの惰性で山行を重ねて、敗退癖が染み付いてしまうことは絶対に避けたい。そこで今回は気分を変えて、単独で取り組むことにした。

21日：「ちくま」にて出発。同じ列車に、スキーに行く下田がいた。

22日：曇り。長坂駅よりタクシーで駒ヶ岳神社まで入り、黒戸尾根から入山する。この尾根を辿るのも今回で4回目だ。4ピッチで半分雪に埋もれた五合目小屋に到着。

食事とお茶を済ませて出発。黄蓮谷への下降路は谷筋に取る。途中の滝はほとんど雪に埋もれているので速い。30分で黄蓮谷に降り立つ。これで今日稼いだ高度はほとんど吐き出してしまった。

谷の中だけあってさすがに雪が深く膝から股程度あり、ワッパを持って来なかったことを少しだけ後悔する。黄蓮谷に入っすぐ目の前にあった30mの滝は

右岸の雪壁から越え、次の坊主滝(40m、50°)は正面の氷壁に取り付き、2ピッチで滝上に出る。今日はここまでとする。

駒ヶ岳神社(8:00) - 八合目(12:30~13:30) - 二股(16:00)

23日: 快晴。二股を左に入る。雪壁と化した出合の滝とF2を難なく越える。積雪は相変わらず多く、雪崩が懸念される。F3、F4は氷壁を登る。F5はカンペによると垂直50mとなっているが、せいぜい70°程度である。上部で岩肌が透けて見えるほど氷が薄くなっているため、あっさり左岸を巻くことにする。

F6(30m、70°)は今回のルート中では最難関の滝である。安定した氷を直上する。後は稜線までただひたすらにラッセルするが、すぐそこに見えるのになかなか近づかずいらいらする。八合目からはよく踏まれたトレースを駆け下る。

二股(7:30) - 八合目(12:30) - 駒ヶ岳神社(15:30)

拍子抜けするほど簡単だった。意気込んでいた割には充実感の乏しい山行となってしまったが、一人で山に向かう時の緊張感には心地よいものがある。

5月山も単独の計画を立ててみようと思う。

## MIYAZAKI — 白いスラブと秋の空

青島 靖

メンバー: 高尾 裕(現役)、尾形達也、青島 靖

11月2日 広タキスラブ左ルート

広タキスラブのある上祝子(かみほうり)は、熟れた柿の実の似つかわしい静かな山里である。朝焼けに染まる山々は紅葉の真っ盛りだ。よく整備されたアプローチから取付に立てば、見渡す限りに真っ白なスラブが広がる。傾斜は恐れていたほどきつくはない。

余裕で1ピッチを終え、2ピッチ目から本格的なスラブに分け入る。小ハングは右より越すとやさしいが、その上のスラブは微妙。3ピッチ目、さらにダイレクトにロープを伸ばす。爪ホールドも乏しくなるが、リズムカルに登るのみ。4ピッチ目は左の草の凹状を登り、5ピッチ目、核心のトラバース。いくつかラインは取れそうだが、トップの尾形は難しそうな最上部のラインをクリア。やさしい凹状からハング下を右上。6ピッチ目、緩いスラブを10mで終了点の松の木へ。

秋晴れの空に、小積ダキや大崩ダキの素敵に岩峰が遠望される。

下降は快適な5ピッチの懸垂で取付へ。延岡駅に戻り、車を借りてなつかしい比叡山の駐車場へ向かう。 (V+ 210m/6ピッチ 4時間)

11月3日 雌鉾岳・美しいトラバースルート～KYCルート

取付からの、頂上へ駆け上がる様なスラブの印象は忘れ難い。体がムズムズしてくるのを押さえることができない。気持ちよいスラブに4ピッチ伸ばして右上ランペへ。そして初登者のセンスの光るトラバースピッチ。フレークから浅いコーナーを登り、微妙なトラバースで右のバンドへ。ここで直上する美しいトラバースルートと別れ、さらにバンドを右に進んで初登ルートであるKYCルートへ。

高尾君リードでKYCをフリーで登る。輝くばかりのスラブの彼方に丸い頂上岩峰(1ノ坊主、2ノ坊主)が顔を出し、空は吸い込まれんばかりに青い。ホールドの細かいフェースからフレークをレイバックで草付バンドへ。次いで小フェースを左に越すと。見事な逆くの字の凹角が現れる。青島リードでこれを登るが、上部3ポイントはアブミを出してしまった。ついで高度感のあるスラブをフレークをつないで1ノ坊主の基部へ。さらに基部のバンドを左に進み、2ノ坊主のフィストクラックを登って頂上に出る。頂上は嬉しくなるほどに完璧な岩峰だ。西日を浴び、甘納豆を食べて(?)登攀の余韻に浸った。

下降は40m下の樹林帯まで懸垂した後、左稜の下降ルートを下り、取付に戻った。 (VI-, A1 450m/12ピッチ 6時間)

11月4日 比叡山・第1スラブスーパールート & 行藤山ウォッチング

前回88年、西沢先輩のリードで2ピッチだけ登った第1スラブスーパールートを完登する。ブッシュの間の岩場をつないで登って行く感じで広タキや鉾岳の開放感には及ぶべくもないが、それでも7ピッチあるのだ。岩質は申し分ない。比叡初見参の2人には素晴らしいクラックラインにも触れてもらいたかったが、なんとなく日和ってしまった。 (V- 270m/7ピッチ 3時間)

帰途、行藤山に立ち寄り。でっかい、そして凄い威圧感だ。宮崎の岩場の奥座敷と言ったところか。またの再訪を誓って、秋晴れの宮崎を後にした。

<第101回>

## 大阪市大ボート祭のご案内

企画運営幹事

今年も恒例の市大ボート祭が、大川において5月30日（土）、31日（日）の両日にわたり行われます。我が山岳会においても昨年に引き続き、2クルー出艇します。ボートに乗りたい人も、乗らずに応援して下さる方も、どしどしご参加下さい。新緑の桜ノ宮でもう一度学生に戻りましょう。

### 記

1. 日 時 : 5月31日（日）午前9時
2. 集合場所 : JR桜ノ宮 大阪駅寄り改札口
3. 参加対象 : 山岳会員及び会友とその家族
4. 服 装 : 運動の出来る服装、運動靴
5. 申し込み 及び : 山岳会事務局 (Tel.06-365-8866)  
雨天時の連絡先 幹事/岡 本 (Tel.06-385-6307)  
西 村 (Tel.0729-88-0863)  
八 木 (Tel.06-876-3818)

\*飲物等の準備の都合がありますので、参加頂ける方は5月24日（日）までに上記までお電話下さい。

（行事責任者：八木）

### 《御寄付》

神吉仁作会員（昭5年高商）より大阪市立大学学生課を通じて、山岳部援助金として御寄付を頂戴致しました。現役の援助に使わせていただきます。ありがとうございました。

### 《『雪線』について》

ただいま事務局では市大山岳部の会報である『雪線』の在庫調査をおこなっております。『雪線』発行が途絶えて久しくなります。会員の方が保管されている在庫の状況を把握するとともに、将来的には復刊の方向へ向かいたいと思っています。一冊でも保管されている方は、事務局まで御一報下さい。

### 《泉氏追悼集原稿の募集》

平成4年度行事計画にもありますが、平成4年12月に、故泉隆次郎氏追悼集を発行する予定であります。その原稿を会員・会友の皆さんに募集いたします。400字詰め原稿用紙3～4枚に縦書きで、5月10日着にて事務局までお願いいたします。

### ★★★編集後記★★★

3月1日発行のはずが、1月遅れて4月1日発行になりました。お待たせしました。ワープロの調子が悪く、少し読みづらい印字になっていますが、御勘弁下さい。

新年度の始まりで、皆様お忙しいことと存じますが、春満開の野原でハイキングなどいかがですか。また、故泉隆次郎先輩の追悼の原稿など、おりおりにお願いいたします。

(編集 矢倉)

## 特別寄稿 商大山岳部の思い出（前編）

池田春次（高商昭和17年卒）

大阪市大山岳部の歴史のなかで、私が在部した昭和15年～17年頃は、言論も情報も統制され物資も乏しく、最も暗い不幸な時代であったように思う。中国への侵略戦争は長期化し、昭和16年12月には日米戦争が勃発、世はあげて聖戦完遂の時代、安逸なレジャーを過ごす人間は非国民といわれた。満足な装備も食糧もなく交通も不便であったが、我々山岳部員はコソコソと街を脱出し山へ向かった。勿論山に入ってしまうと、そこには若人の情熱を注ぐだけの天下があった。

私は在部わずか2年間、これといった山歴もなく、また何ぶんにも50年余りも昔のことで記憶も定かではない。しかし反面、強く印象に残っている山行などもあり、思い出を辿ってみたい。

九州の名門校佐賀中学を劣等で卒業し、大阪商大高商部へは多分及落ギリギリで入学したと思う。勉強は好きではなかった。最初カッコよさに引かれて馬術部に入部した。馬場で訓練中に落馬。足をアブミに引っ掛けたまま馬場を3周し、胸を強打して入学早々学校を1ヶ月ほど休んだ。

これに懲りて、今度は何となく山岳部に入った。のびのびと近くの野山でもハイキングできる今で言うワンダーフォーゲル部のつもりで。しかし事実は全く予期に反していた。暗い部室のなかにあったヨレヨレの汚いキスリングに煉瓦をつめて、学校の運動場をかけ足で走りまわった。下宿に帰って鏡で背中を見ると、むけて血がにじんでいた。

日曜日は来る日も来る日も岩登りの練習。行き先は道場の不動岩や六甲の保壘岩など。全く未経験のため最初は足がガタガタふるえたが、そのうちにだんだん面白くなり、やがてはスイスイとトップを登るようになっていた。その頃は岩場で他のパーティに会うことも殆ど無く、のんびりと静かな楽しい一日が過ごせた。つい最近の日曜日、山歩きの通りがかりに保壘岩をのぞいてみたら、沢山のクライマーでごった返しているのには驚いた。

岩登り以外に近くの山へ連れて行って貰った記憶はあまりない。唯一度だけ大峰の弥山に登ったことを覚えている。岩の多い弥山川を遡り、途中雨のなかで幕営。翌日ボロボロで小さい無人の弥山小屋に泊まった。同行者は5名ほどだったが、誰だったか思い出せない。誰かが、小屋の床下から出てきたガマをつかまえ、ナタで頭を切り、皮をむいて焚き火で焼いてくれた。臭みが無くヤキトリを食べているようで非常にうまかった。

ゲテモノと言えば、部員で蛇を捕まえるのが上手な人がいて、道場の田圃で青大将をとり、皮をむいて川原の焚き火で焼いてくれたが、これは少し臭みがあっておいしいとは思わなかった。最近の百丈川原は、春秋の休日はキャンパーで一杯だが、当時は訪れる人もなく、キャンプファイアーを囲んで青春を謳歌したものだ。静かな古き良き時代であった。

当時の部員は多士済済であった。不正確かもしれないが、5年先輩に大橋さん、片山さん（故人）、4年上に森本さん（故人）、林さん（故人）、三島さん、入江さん（故人）、3年上に大島さん、富村さん、米井さん（後に白井と改姓）、2年上に川本さん（故人）、1年上に杉尾さん、池田正男さんがおられた。また、同僚には岸本君（故人）、山口君、鬼城君が、1年下には鈴木君、三好君などがいた。部員数も多く、技術もすぐれ、山歴も豊富で、商大山岳部は我国の登山界では優秀なグループであった。

部内では4～5年先輩はえらい人で貫禄があった。私は1年上の池田正男さんに岩登りなどでよくしぼられた。また、土曜の午後などは時々池田さんの自宅（住吉の大きい味噌屋）に遊びに行ったことを覚えている。私が信頼する良き兄貴分であった。

その頃、部内に「ヒマラヤ研究会」という勉強会を作っていた。海外の山の情報など入手不可能の時代であったが、何処からか資料を集めてきて検討、討議を行っていた。戦時中で海外渡航は禁止されており、外貨も取得不可能の折、ヒマラヤは夢のまた夢であった。しかし、いつの時代かこの夢が実現されることを祈りながら意見を戦わせていた。勿論、現在のようなヒマラヤ全盛の時代が訪れるなど夢想もしなかったが。

私が生まれてはじめてスキーをはいたのは、昭和15年12月後立山・五龍の冬山であった。中学時代は水泳の選手で山とは無縁の私が、いきなりアルプスの冬山に参加したのは、ベテラン先輩の支援とアドバイスがあったからだ。その頃の遠見尾根には勿論スキー場やリフトは無く、凄惨な深雪の中をスキーにアザラシのシールを貼って登った。トレーニング不足のために悪戦苦闘、くたくたになって日が暮れて遠見小屋に着き泊まった。

しかし、体調が悪く、私だけが翌日下山することになり、大橋さんにガードしてもらった。滑って下りたというより転んで下りたという方が正しい。何回も転倒し、深雪の中から顔だけ出して大声でわめいていた情けない自分を思い出す。大橋さんにはその折大変厄介になった。

（次号に続く）